

海の安全レポート

第七管区海上保安本部
海の安全推進室
093-331-6395（交通部安全対策課）

第127号 平成28年8月

「マリンレジャー安全レポート」は、「海の安全レポート」に生まれ変わりました。

BACKNUMBER

http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anken_report/

マリンレジャーの事故多発中！

本格的なマリンレジャーシーズンとなり、魚釣りや海水浴を楽しむ方も多いかと思えます。8月に入り既に14件の事故（死亡3名）が起きています。

7月から、水上オートバイ等が絡む事故や海水浴場で溺れるという事故が頻繁に発生しております。

今号では、マリンレジャー事故の再発防止の願いを込めて事故事例を紹介いたします。これからもマリンレジャーを安全に楽しんでいただくため、参考としていただけたらと思います。

～ 水上オートバイが絡む事故事例 ～

8/7 海中転落：大腿骨骨折

会社員の20代の女性が友人4人と山口県下関市吉母海岸を訪れ、海の家従業員が操船する水上オートバイに曳航される円盤型浮体に乗艇しました。

5人で、浮体に立乗りの状態で楽しんでいたものの、水上オートバイの速度と旋回が緩やかであったため、より一層のスリルを楽しむために操船者に荒い運転を要求。その結果、水上オートバイを右急旋回させた際、浮体の右側が浮き上がり転覆。女性は浮体が浮き上がった弾みで握っていた取っ手から手が離れ、海に転落しました。

転落の際、同乗の友人と接触したか、水面に叩きつけられた衝撃のためか、右大腿骨骨折という重傷を負ってしまいました。

この他の海水浴場でも、肋骨骨折や顔面裂傷（左目尻上部縫合）、溺水（数日間入院）などの事故が発生しています。



～ 海水浴場での事故事例 ～

8/2 遊泳中溺水：死亡

会社の慰安旅行で壱岐島を訪れた62歳の男性が、昼食の際に缶ビール（350ml）を2～3本飲酒。昼食を終え、14時頃に遊泳を開始。先に泳いでいた同僚が気付いたときには、うつ伏せで浮いていました。同僚らにより意識のない状態のまま海岸に引揚げられ、救急車来るまで心肺蘇生が行われましたが、残念ながら搬送された病院で死亡が確認されました。

飲酒・飲食後の遊泳は体に大きな負担（酸欠状態）があり、大変危険とされています。詳しくは海の安全レポート第124号（H28.5）で紹介しています。

～海水浴を楽しむために～

- ・ 遊泳禁止場所で泳がない
- ・ 遊泳禁止発令中は泳がない
- ・ 体調不良時や飲酒後などは泳がない
- ・ 自分の泳力を過信しない
- ・ 一人で泳ぎに行かない
- ・ 小さな子供からは目を離さない
- ・ 連絡手段（海のもしもは118番）を確保する



知っていますか？ 9月12日は何の日？

9月12日は、何の日か御存知ですか？

答えは、「水路記念日」です。

明治4年（1871年）9月12日、兵部省海軍部に「水路局」が設置されました。この日が我が国における水路業務の創始日とされ、「水路記念日」とされています。今年で145回目の「水路記念日」を迎えます。

現在では、「水路局」の業務を海上保安庁の「海洋情報部」が引き継いで実施しています。

「水路業務」とは？

船は車と違い、幅と頭上の高さに余裕があればそこを航行できるのではなく、船の深さ（喫水）より海が深くないと、座礁してしまいます。水路業務とは、海の深さや海潮流など、船舶の安全航行に必要な調査を行い、海図という海の地図を作成、提供することにより、船の安全航行を支えているものです。

「海洋情報部」の業務とは？

海上保安庁海洋情報部では、日本の経済物流を支えている海上交通のために不可欠な、海図などの航路情報を提供しています。また、近年では、領海や排他的経済水域等の海洋権益の確保や海洋資源開発に必要な、海底地形、地殻構造の調査・観測などを行っています。

第七管区海上保安本部では、「測量船 はやしお」等を活用して、管内の広大な海域の海の深さや海潮流を調査しています。

今月の Topic 画像

測量船「はやしお」



この写真は、上記でも紹介しております第七管区海上保安本部所属の測量船「はやしお」です。

主要業務は、水路測量（海の深さを測る）と海象観測（海潮流観測など）です。

装備は、マルチビーム音響測深機や超音波流速計、慣性GPSジャイロなどがあります。